

事務事業マネジメントシート(令和 6年度実績と令和 7年度計画)

令和 7年 9月10日更新

事務事業名		合志市歴史資料館運営事業			<input type="checkbox"/> 安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 <input type="checkbox"/> 「こどもまんなか社会」の構築 <input type="checkbox"/> 産業の共生による市経済の持続的発展		
総合計画体系	政策	3	教育の健全	所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺 良輔
	施策	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	生涯学習課	担当者名	米村 大
	業務分野	44	歴史・伝統文化(文化財を含む)の保護と継承	所属班	生涯学習班	(内線)	1512
予算科目		会計一般	款 10	項 5	目 7	事業連番	10923
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 6年度で終了 <input type="checkbox"/> 6年度から開始			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む)	平成7年度、合志歴史資料館及び西合志郷土資料館完成。それに伴い事業開始。歴史資料館長を1人配置し歴史資料等の収集・保管・管理及び展示を行なった。文化財保護の啓発および市民の郷土史学習の支援として、ふるさと探訪まちめぐりバスを複数回実施。年に1回合志歴史資料館にて特別展を開催した。子ども歴史科学体験教室については、子どもたちの体験活動支援事業として平成16年度開始。郷土の文化財を周知し、市民に学習の場を提供することを目的として設立。現在残されている貴重な史料は、経年による劣化や破損、散逸の危険性が増えていく。それに伴い、保護して後世に残すべき史料は少しずつ増加すると思われる。また、子ども歴史科学体験教室については、一定の参加者がある。平成26年度より10836合志市郷土・歴史資料館維持管理事業を統合。平成29年度7月より両資料館を合志歴史資料館に統一し、西合志郷土資料館を合志マンガミュージアムにリニューアルした。合志歴史資料館は、平成28年熊本地震以降、被害にあった合志市総合センターヴィーブルの復旧工事に合わせ、平成29年度末まで休館。平成30年4月に合志市歴史資料館としてリニューアルオープンした。
【業務の流れ】	展示物、収蔵資料の整理、保管。展示物および収蔵資料の保管。市史編纂資料の収集・作成、体験教室・企画展の開催。
【主な予算費目】	報酬、職員手当等、報償費、旅費、需用費、委託料、使用料及び賃借料

(1)事務事業の振り返り・計画

①6年度事務事業の成果・実績

【目的】	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成
【内容】	歴史資料館長を1人配置し歴史資料等の収集・保管・管理及び展示を行なった。文化財保護の啓発および市民の郷土史学習の支援として、ふるさと探訪まちめぐりバスを複数回実施。年に1回合志歴史資料館にて特別展を開催した。
【実績】	ふるさと探訪まちめぐりバスを7回実施した(参加者180名)。ふるさと探訪まちめぐりバスは「旧合志地域の地名の由来を巡る」と題し、市内を見学した。また、熊本博物館の見学とわくわく座・熊本城を巡る、「北里柴三郎記念館・坂本善三美術館・須永博士美術館・鍋ヶ滝を巡る」と題し市外の見学も実施した。子ども歴史・科学体験教室を9回実施した(参加者680名)。熊本県立装飾古墳館見学等の歴史体験を実施した。合志市ふるさとカルタ台湾語訳を「台熊祭々in合志」のイベントや生涯学習主催講座の「日本語教室」において活用した。「半導体と熊本の未来」をテーマに、令和6年9月～翌年2月まで特別展を実施し、来場者総計1,464名で昨年度の特別展を上回った。
【成果】	多くの市民に参加していただき、文化財の郷土愛の醸成を図ることができた。

②7年度計画(次年度に計画している主な内容)

- ・ふるさと探訪まちめぐりバス
- ・子ども歴史・科学体験教室
- ・竹迫城解説動画、合志市昔話映像編集
- ・歴史資料の収蔵・展示・収集・適正な管理・調査・研究

③予算の主な増減の理由

会計年度任用職員の昇給による期末勤労手当の増

成果指標

来館者数

(単位)

人

データ取得方法

(2)成果指標・総事業費の推移

成果指標	単位	4年度	5年度	6年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
来館者数	人	1,040	2,085	4,500	3,206	4,500	4,500	4,500	4,500
事業費	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円	93	115	62	70	72	72	72
	繰入金	千円							
	一般財源	千円	3,246	2,563	3,024	3,207	2,548	2,548	2,548
(A) 事業費計	千円	3,339	2,678	3,086	3,277	2,620	2,620	2,620	

(3)評価の総括(成果向上の余地・事業費削減の余地)

講座によっては、参加者の人数にばらつきがあるため、より多くの市民に歴史に親んでもらうために、内容の見直し等も常に考えていく必要がある。

(4)今後の事業の方向性

- 廃止 縮小 事業のやり方改善 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)